

2 小動物の檻の購入補助はできないか。

3 サル用ネット以外の防犯ネットの補助はできないか。

4 新規に狩猟免許を取得する者にその費用を助成できないか。

答 (田口産業課長)

檻の購入台数については、予算の範囲内で検討したいと思っています。

小動物の檻やサル用以外のネットの購入補助については、今後要望がたくさんあれば、検討していきたいと思っています。

銃や狩猟免許の新規取得に対する補助は現在行っていませんが、将来、鳥獣被害対策実施隊を設置することになれば、必要になってくると思いますので、ある程度検討しなければならぬと思います。

問 鳥獣被害対策実施隊は、狩猟の免許を持った方の実施隊なのか、その構成は？

また、他町村では、中山間地域直接支払制度に加入している地区をモデル地区として防衛対策を行っている事例もありますので、これを利用して対策推進はできないか。

食肉利用について今後も検討を続けてほしいが、焼却・埋設処分は、周辺の影響はないのか。

答 (田口産業課長)

実施隊は、猟銃を所持している人を対象としております。

猟銃の講習を受ける費用の免除規定もあります。身分は非常勤の公務員である民間人又は職員が行うようなものです。猟友会で狩猟免許保有者をそのまま実施隊にすることは異なります。

モデル地区については、現在、見直している計画の中で、地域協議会を設置しないと、事業の採択が受けられないので、全町だけでなく各地区でも地域協議会を作っていくかなければならぬと感じています。

捕獲鳥獣の処分方法は、現在、焼却か埋設であります。ほとんど埋設処分を行っております。もし、掘り返されてもいけないので、有害鳥獣駆除の許可の指示事項で確実な処分を徹底していきたいと思っています。

問 国の平成24年度補正予算で鳥獣被害防止対策の補助金が組み込まれたようだが、イノシシを捕獲したときに、八百津町では単独で1頭あたり15,000円位の助成金が出ていると思えますが、この国の補助金はこれに使われるのか、補助事業全体に使われるのか。

答 (田口産業課長)

国の鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業として129億円ほど予算措置されています。30万頭を緊急捕獲とする政策目標が掲げられていますが、詳しい話が来ておりませんが、町としては、現在、町が助成している助成金

に充当していきたい。

Q2 道路網整備について

問 町の道路網整備は徐々に進んでいるが、東部地区は未改良区間が多い。「快適な生活を送るために安心で安全な道路」「地域と地域を結ぶ道」づくりのためにも、整備促進が急務である。次の路線整備計画を問う。

- 1 県道恵那・八百津線(飯地・篠原間)の整備について
- 2 「小判田・鷲ヶ峰トンネル付近を結ぶ新設道路」の整備について
- 3 「国道418号関連で、国道21号から瑞浪市を経て、十日神楽から福地、白川町へ縦断できる南北線を造っていかねば」と考えている」と以前発言された、この路線の整備について

答 (片岡建設課長)

潮南地区には、現在改良を進めている県道篠原・八百津線、かねてから要望いただいている坂折峠の改良を含む県道中野方・七宗線があります。国道418号の道渡以東の改良を見据えたお話かと思いますが、当町としては、まず、現在改良中の県道篠原・八百津線を優先し、将来、国道418号と東で接続する県道恵那・八百津線も随時要望していく所存です。

小判田から鷲ヶ峰トンネルを結ぶ道路整備については、町道柚沢・小洞線の小判田バス停付近から国道418号の鷲ヶ峰トンネル手前交差点までを結ぶ新設道路です。平成23年に東部3地区のほとんどの方々の署名を伴うご要望をいただいております。受け止めております。

現在、第4次八百津町総合計画に事業計画を記載し、ルートなどの検討を進める予定ですが、山間地帯を通る道路であるため、勾配がかなり急勾配になること、建設費用も高額になることが予想されます。また、ルートの位置によっては、下流に民家があるため、道路排水による二次災害の恐れがあることなど、今後慎重に検討を進めて参ります。

中濃と東濃地域を結ぶ当地域において東西を連絡する幹線道路は、南から東海環状、国道21号、国道418号、主要地方道恵那・白川線、国道256号、257号、濃飛横断自動車道等が整備もしくは整備されつつあります。

しかし、南北を連絡します幹線道路は国道41号、19号のみであり、その間の1路線の整備が重要であるかと考えています。南は瑞浪市の明世町の国道19号から、県道大西・瑞浪線を経由して日吉町に至り、五月橋を渡り、当町に入り、町道十日神楽線、亀ヶ谷線、大那木集落道を通り、白川町赤河地区、黒川地区を経

て、美濃東部農道にて国道256号、東白川村経由で下呂市と中津川市を結ぶ国道257号に加子母地内にてつながる路線です。

この路線は、国道・県道・町道等管理者がそれぞれ違い、全線2車線ではありませんが、すでにその一部が改良され、今後、改良計画がある路線が多く含まれています。

しかし、リニア新幹線の新駅が中津川市に計画されるなか、沿線の方々は、南北線よりも東西線の幹線道路を利用される重要な路線になると考えています。今後はそれぞれの管理者と協議を進め、事業推進に努めて参りたい。

問 県道恵那・八百津線では、未改良区間が多く、今後、重要視される路線として、東部地区とともに町も県へ働きかけていかねばならない。

町道十日神楽線は改良された道路だが、一部「土砂災害特別警戒区域」に指定された路線です。また、迂回路もないため、大災害に対する備えも必要になってくる。こういった路線の道路整備についての考えを問う。

答 (片岡建設課長)

恵那・八百津線については、国道418号が道渡地区まで開通したことにより、飯地・中野地区の方の利用が増え、坂折峠等の改良等、恵那管内の土木事務所にも地元の方々とともに